

オンド・マルトノ ミニ知識

大矢素子

オンド・マルトノは1920年代のアール・デコ華やかなりしフランスで生まれた、電子楽器のアンティークのような楽器です。一台一台が手作りで、制作者の魂が込められている作品なのです。



演奏者が座っている前にある、小さなオルガンのような楽器が**本体**です。



[パルム・スピーカー]
美しい流線型をしたパルム・スピーカーは蓮の花びらを模しており、両面に弦が張られています。

[メタリック・スピーカー]
手前に置かれた五角形の中型のスピーカーの裏にはなんと、どら(銅鑼)が内蔵されています。



そのほかに、音を増幅するスピーカー(メイン・スピーカー)が数台あり、これら数種類のスピーカーの音のバランスを演奏しながら手元で操作し、リアルタイムで音を作っています。

奏法はおもに2種類。鍵盤の前に張られたワイヤーをすべらせながら演奏するリボン奏法と、鍵盤奏法があります。いずれにせよ、同時に幾つもの音を引くことはできない(和音を出すことができない)旋律楽器なのです。

そのかわり、メロディーの響かせ方や、音をふるわせる(いわゆる“ヴィブラート”)方法を、演奏しながら手元のトゥッシュエ[写真・右]で自由にコントロールすることができるため、電子楽器でありながら、非常にアナログ感覚に満ちた楽器といえるでしょう。
電気をエネルギーにした人間味あふれる楽器。そこがオンド・マルトノの魅力のひとつだと思います。

